

秋の多摩川

凡例

植生	記号
自然の草地	駐車場
樹林	お手洗
タケ・ササ地	危険なところ
水面	大きな木
砂・れき地	
基盤のあらわれているところ	
人工改変地（公園など）	

種の散布

実りの秋とよくいいますが、河原の野草たちの多くにとっても、秋は実を結び種子（たね）を散布するメインシーズンとなっています。種子の散布方法にはいくつかありますが、その代表的なものをあててみましょう。

- ・風散布 風によって種を運ぶ方法です。種は軽くて風のにのりやすいように綿毛や羽根がついているものが多いのが特徴です。河原ではススキ、ツルヨシ、オギなどが代表的です。また、つる植物のガガイモは、長さ7cm位の太いさを割って、整然とたたまれた網のような綿毛を開いて次々と風のとっていきます。その様子は、とても幻想的にみえます。



ツルヨシ群落



ガガイモ 果実



イタドリ

種にはつばさがついています。



オギ ススキ

写真の左側がオギ、右側の株がススキです。

- ・動物散布 動物の毛や人間の衣服などに付着して種を運んでもらおうというやり方です。コセンダングサやオナモミなどは、種についているカギツメを利用して、これでからみつきます。メナモミは、種の表面にネバ/バした粘液がついており、これを利用して付着します。



コセンダングサ

黄色い花をつけます。円内は果実の拡大写真です。



オナモミ

- ・鳥散布 秋に鮮やかな色の実をつけるカラスウリやノイバラをヒヨドリなどの野鳥がついばみます。このとき鳥は種と一緒に飲み込んでしまいます。しかし、種にはかたいからがあるので消化されずにふんと一緒に落とされます。



カラスウリ



ヘクソカズラ ノイバラ

目立つ赤い実がノイバラで、上の方につるからみつけている黄かっ色の実が、ヘクソカズラです。



ダコノアシ

伏流水や溜ったところに生えています。写真は花が終って結果しているところです。花のついた茎の形がタコの足のようにみえますか？市内では、あまり見ることができなくなった植物です。



ミソノバ

小さな流れの水辺に群生しています。



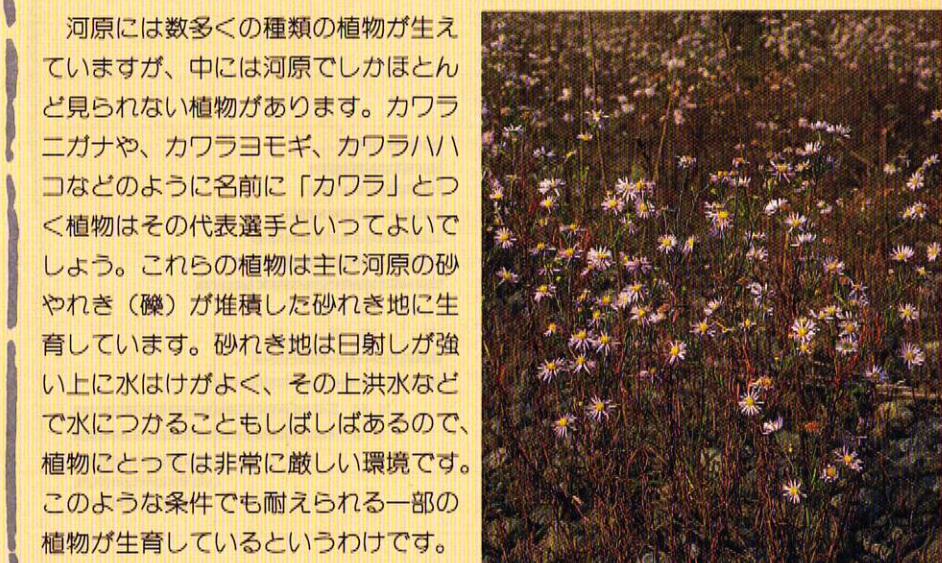
ヒガンバナ



オオイヌタテ

オオイヌタテは南公園の近くの砂れき地で、最近とても数が多くなってきています。花の色は白色のほか、うす緑色があります。

石れき地に特有の植生 カワラノギク



カワラノギク群落

カワラノギクは、多摩川中流域で発見され、全国でも本州中央部の太平洋側の河川の中流域だけにしか生育していないまさに河原に特有の植物です。カワラノギクの生育しているところをよく観察すると、砂れき地のなかでも、砂や粘土のほとんど堆積していない石れき地と呼ばれる場所に限られていることがわかります。この石れき地は、洪水によって通常の流路から側方にあふれた水に乗って運ばれてきたれきが流速が遅くなるのにもたまって堆積してできた（細かい砂や粘土は軽いので流されてしまう）ものです。このような土地は、栄養分も乏しく、乾燥しがちな河原でも最も過酷な環境の一つです。

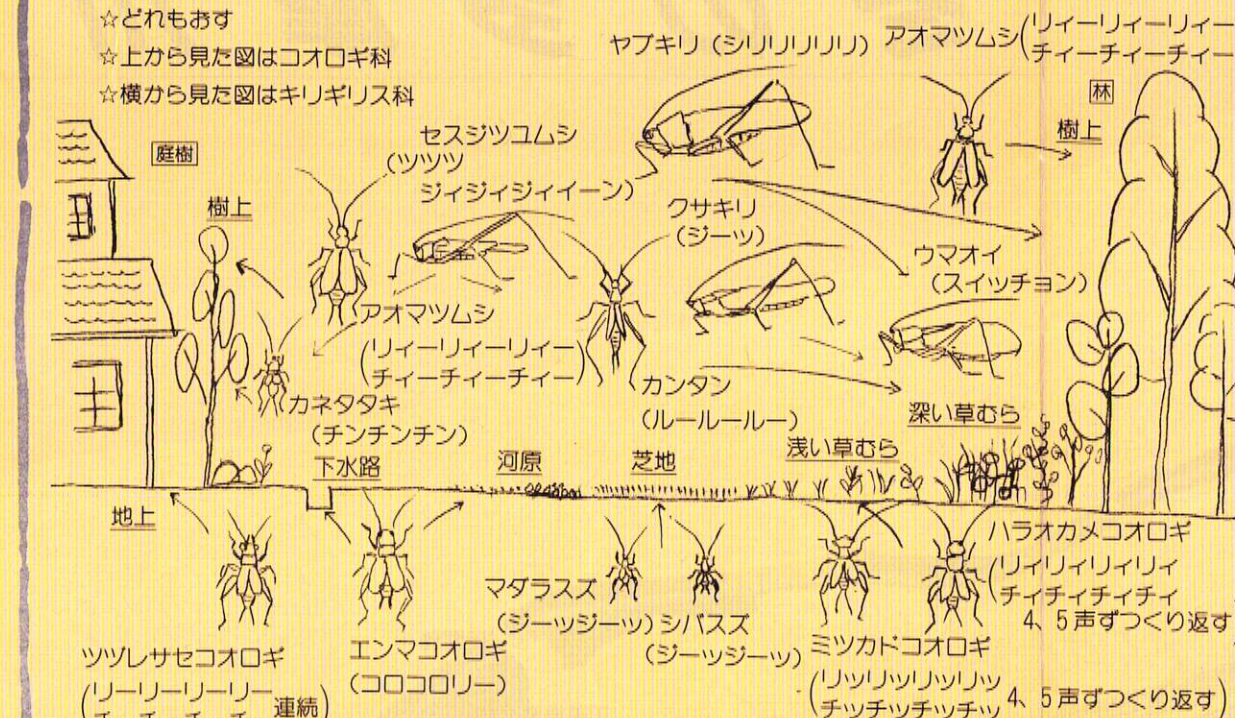
ところが、最近では河川の人間による管理が進み、洪水が起きることも減少なくなってきました。上流にはダムが建設され、砂れきが上流から流れてくる量も極端に減ってきています。このため、カワラノギクの生育するような石れき地は減少し、今ではカワラノギクは福生市内ではほとんど姿を消してしまいました。現在は、対岸（羽村市）の羽村大橋下流付近に大きな群生地がみられるだけです。しかしここでも、オオアブクサやススキの侵入が目立ってきています。



カワラノギク（円内）

カワラノギク

秋の鳴く虫たち



秋の鳴く虫というと、キリギリスとコオロギの仲間のことです。バツヤセミの仲間も、普通聞かれます。昔からお祭りの夜店に並べ売られている鳴く虫たちの中で、マツムシ、スズムシ、キリギリスは、今ではもう、福生市内ではみられなくなってしまいました。わずかにカントシ、クツムシが残っているぐらいです。

それに代わって数が増えたのがアオマツムシです。この種は一生を木の上で生活するので鳴き声が樹上（巨木より高いところ）から聞こえてきます。地上（巨木より低いところ）で鳴くエンマコオロギなどと聞き分けることができます。気をつけて聞いてみましょう。

また、例えはエンマコオロギでは時間帯・場所・仲間の異なるなどとの違いにより「ひとり鳴き」「さそい鳴き」「けんか鳴き」のように3通りほどの異なる鳴き声があるといわれます。

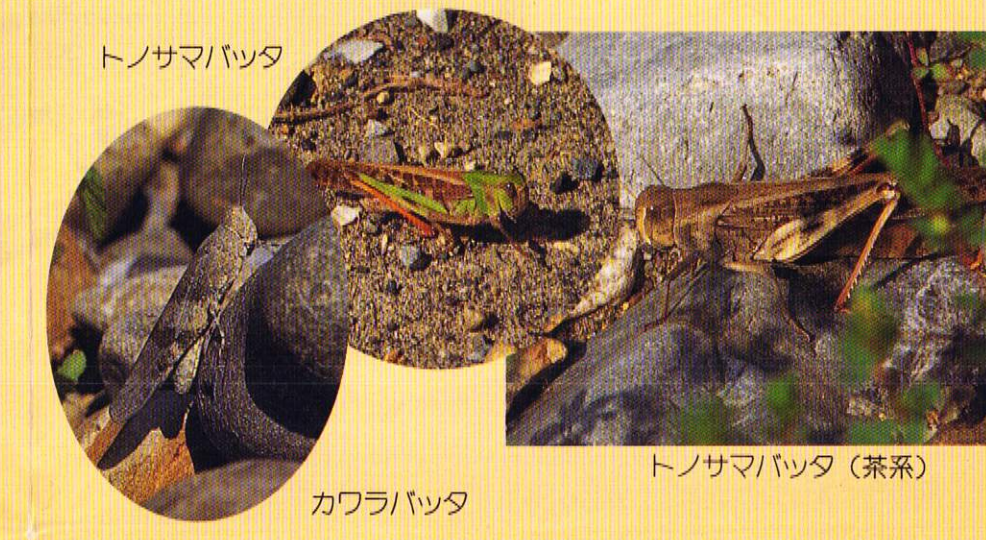


コバネイナゴ

水田や水辺に多く、イネの害虫です。ハネが尾端より長いハネガイナゴがいます。



イボバツタ



カワラバツタ

バツタのすみか

- ヒシバツタ科 — ハネガイナゴバツタ（水辺の地面）
- ヒシバツタ科 — ヒシバツタ（庭・畑の地面）
- ノミバツタ科 — ノミバツタ（庭・畑の地面）
- トノサマバツタ科 — トノサマバツタ、クルマバツタ、クルマバツタモドキ（イネ科の草地）
- トノサマバツタ科 — カワラバツタ（河原の石・砂地）
- トノサマバツタ科 — イボバツタ（庭・畑地）
- バツタ科 — ショウリョウバツタ類—ショウリョウバツタ（イネ科の草地）
- バツタ科 — ヒナバツタ類—ナギイナゴ、ヒロバツタ（土手の草地・シロシロシロと鳴く）
- バツタ科 — オシバツタ類—オシバツタ（畑地・草地）
- バツタ科 — アカアシバツタ類 — ハネガイナゴ、コバネイナゴ（水辺の草・水田）
- バツタ科 — ツチイナゴ、セグロイナゴ（草地）



セグロバツタ 交尾

昆虫とその食草

- コビルガオ
- カタムグラ
- カタミ
- ススキ
- ヘクソカズラ
- スイカズラ
- ウス
- ギシギシ類
- エノキ
- ハギ類
- メドハギ
- クヌギ
- クヌギ
- イボタノキ
- ネムノキ
- アラカシ
- イヌコリヤナギ
- エビガラスズメ・シンガサハムシ類
- カタミ
- ヤマトシジミ
- ジャノメチョウ類・セセリチョウ類
- ホウジャク類
- イチモンジチョウ
- ウラギンシジミ
- ベニシジミ・ハクロノミチ・ハムシ類
- ゴマダラチョウ・テンゴチョウ
- ツバメシジミ・ルリシジミ・キチョウ
- シャチホコガ・コムシジ・キチョウ
- ミズイロオナガシジミ
- アオスジアゲハ
- ウラゴマダラシジミ
- トモエガ
- ムラサキシジミ
- ウチスズメ・黄刺にカミキリ類